

正法寺(東松山市)



日本百観音石仏







四国八十八ヶ所石仏





さまざまな石造物/「奉造立寶篋印塔」とある













左手の道を進むと「県指定史跡 正法寺六面幢」がある





ここを左に進む





正面に六面幢が見えてくる





埼玉県の指定史跡となっている



### 正法寺の六面幢

県指定文化財

この六面幢は、緑泥片岩(青石)の六枚の塔婆を組み合わせて六角柱を作り、その上に六角形の笠石をのせてあります。高さ一〇七cm、板石の大きさは横三六cm、縦一〇一cm、笠石の直径一二八cmです。

笠石の周縁には飛雲・裳裾には双竜と宝珠、宝相華や飛雲が線刻されています。

板石にはそれぞれ銘文が刻まれています。その銘文によると、天正十年(五八二年)二月に、岩殿山の僧道照が俊譽・妙西・道度・俊意らの善提を供奉するために建立したものと思われます。

六面幢は、鎌倉時代から室町時代に建てられたものですが、現在知られているものは極めて少なく、正法寺のものは、年代的にも新しいものです。

- 日 (鑿子) 阿曇院三母 關山堂後弟子 後法法師成仙 又正十年改齊中日
- 上替文頂 可成寺北殿并 口口書門
- 日 (鑿子) 阿曇院三母 妙西傳光
- 日 (鑿子) 六地藏菩薩 道慶律師尼持宗 後意法師
- 日 (鑿子) 大日如來 山岳別立文 文頂
- 岩殿山花押山山居
- (鑿子) アミロウシヤン 道慶舟位

昭和五十八年三月

東松山市教育委員会

文化財を大切にしよう

六枚の塔婆と笠石でできている/緑泥片岩











この面の石は剥がれてしまっている





